

6月22日はうれしの学園生涯大学に通われている14名の高齢者の方々が本校生活科学科との世代間交流事業に来られました。



3年ぶりの実施でしかもコロナ禍ということで、実習内容もかなり限定的なものになりましたが、料理の達人「大田忠道」先生に教えていただくこともあって、来られた高齢者の方々だけでなく、本校生も緊張の面持ちで交流に臨みました。大田先生のお手伝いには「佐藤学」先生が来られ、実技指導と要所要所でのポイントを伝授していただきました。講義が終わり実際の実習に入ると、鮎に串を刺す場面では見たことを実践するのですが、やはり慣れと経験が必要で、先生方に直接ご指導いただいたり、手慣れた高齢者の方々に本校生が教えてもらったりと頭を突き合わせながらの実習を楽しむことができたように思います。なすの揚げ物を作る際に切る作業では、生徒が見守る中、包丁を片手に作業されていました。本校生もいつもは自分たちが実習するばかりでしたが、高齢者の方々と一緒に活動で、刺激をもらい、人に伝える、教える難しさも経験できたと思います。ちらし寿司の盛り付けも先生方の見事な包丁さばきと盛り付けに感嘆の声を上げながら実習に臨んでいました。こういった時期なので、一緒に食事はできませんでしたが、思い出と共に貴重な経験とちらし寿司等のお持ち帰り食品を持って帰っていただけたようです。皆さんお疲れ様でした。そして大田先生、佐藤先生、ありがとうございました。

また同日、県教育委員会事務局人権教育課の訪問指導があり、中村主任指導主事と原田主任指導主事が本校に来られ、3-1の人権LHRの授業を見ていただき、全般的な指導助言をいただきました。授業では

導入として兵庫県のアルバイト最低時給の質問から始まり、知らない自分の権利も侵害され、それが元で他者の人



権も侵害することになる場合もあるということから「知らない」はダメという話でした。ICT活用もされ、生徒も慣れた感じで問いに答えていく様子やその回答を全員で共有できることなど学びの深まりが感じられる内容でした。生徒たちも活発に意見を交わし、意図した内容が十分に伝わっているように感じました。就職面接の際の会社側の不用意な質問の例を挙げながら「何がいけないか」を考えさせていました。生徒たちも意外な顔をしながら質問されても答えなくても良い項目があることを知り、理解は深まったようでした。その後、県教育委員会からの指導助言もいただきましたが、授業全般的には生徒たちの活発な意見交換やICT活用も見ていただいたので、感心されていました。『今後に向けて「自分を大切に、他人を大切に」「知らないはダメ、知っておこう」という気持ちを持ち続けてもらえるように指導をお願いします』という助言をいただきました。人権担当の先生方、授業担当の冨澤先生ありがとうございました。

6月20日に夏至を迎え1年で一番日の長い一日でした。日の出4時46分、日の入り19時16分です。ここから日の出が少しずつ遅くなり1ヶ月後には5時台になり、日の入りも少しずつ早くなります。暑さはこれから湿度と共に増してきますが、体調を整えて日々の変化を楽しんでください。また期末考査1週間前にもなります。1学期のまとめをしっかりしつつ、新型コロナ感染防止対策も各自の判断でしっかりと行うようにしていきましょう。